

第6回 大阪蘇生アカデミー

蘇生ガイドライン 2020 に向けて

参加費無料
定員500名

【第一部】 9:30～12:30

病院外心停止記録活用研究会

「ベストプロトコルへの挑戦」

【第二部】 14:00～17:45

特別講演

ガイドライン2020に向けて

静岡県立総合病院 安全衛生監・集中治療センター長
一般社団法人日本蘇生協議会 代表理事 野々木 宏
大阪医科大学 救急医学教室 講師 新田 雅彦

日時 2018年12月5日(水)9:30～17:45 (開場9:00)

大阪府立男女共同参画・青少年センター

会場 (ドーンセンター) 7階

住所：大阪府中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター
(京阪・地下鉄「天満橋駅」から徒歩約10分)

申し込み 10月以降、下記URL/QRコードよりお申し込みください。
<https://goo.gl/Gg6kvW>

【お願い】 大阪府下の消防機関の方は、必ず所属を通してお申し込み下さい

主催 NPO大阪ライフサポート協会
共催 大阪医科大学 救急医学教室
大阪市立大学医学部附属病院 救命救急センター
大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター
関西医科大学附属病院 高度救命救急センター
京都大学環境安全保健機構附属健康科学センター

後援：大阪府
大阪府下消防長会
大阪府救急業務高度化推進連絡協議会
(大阪府MC協議会)

病院外心停止記録活用研究会 プログラム

時間	内容
9:30-9:35	開会挨拶 近畿大学 IRセンター 教授 平出 敦
	演題発表 (1 演題：発表1 2分・質問3分)
	座長： 関西医科大学附属病院 高度救命救急センター 講師 梶野 健太郎 日本大学医学部 救急医学系救急集中治療医学分野 臨床教授 櫻井 淳
	コメンテータ： 厚生労働省地域医療計画課 救急・周産期医療等対策室 病院前医療対策専門官 飯塚 悠祐 消防庁 救急企画室 救急専門官 小谷 聡司
	講演1「心停止に対するECPRの可能性 ～チーム医療で命を救う～」 演者：兵庫県災害医療センター 救急部 副部長 井上 明彦
9:35-11:05	講演2「関東地方での取り組み SOS-KANTO 2012を振り返って」 演者：東京ベイ・浦安市川医療センター 救急集中治療科 医長 本間 洋輔
	講演3「最新のエビデンスを踏まえたベストプロトコルの考察」 演者：京都府立医科大学大学院 救急・災害医療システム学 助教 松山 匡
	講演4「岐阜県におけるドクターカーの試み 課題と展望」 演者：岐阜大学医学部附属病院 高次救命治療センター 臨床講師 名知 祥
	講演5「救急隊員による現場での死亡判断の課題」 演者：近畿大学 IRセンター 教授 平出 敦
	講演6「病院外心停止記録と日本救急医学会救急標準カルテの可能性」 演者：日本医科大学多摩永山病院 救命救急センター 病院講師 田上 隆
11:05-11:30	休憩
11:30-12:30	総合討論
12:30	閉会挨拶 京都大学 環境安全保健機構附属健康科学センター 教授 川村 孝

【問い合わせ】 大阪蘇生アカデミー実行委員会 事務局

resuscitation_acad@osakalifesupport.jp

大阪蘇生アカデミー プログラム

時間	内容
14:00-14:05	開会挨拶 京都橘大学 健康科学部 教授 西本 泰久
14:05-15:15	<p>特別講演：ガイドライン2020に向けて 座長：京都大学 環境安全保健機構附属健康科学センター 教授 石見 拓 大阪府 政策企画部危機管理室消防保安課 課長補佐 松野 亨</p> <p>演題1：蘇生ガイドライン2020作成に向けて：我が国の国際貢献と今後の展望 演者：静岡県立総合病院 安全衛生監・集中治療センター長 代表理事 野々木 宏 一般社団法人 日本蘇生協議会</p> <p>演題2：ウツタイン統計は何をもたらしたか？ 小児蘇生学からの展望 演者：大阪医科大学 救急医学教室 講師 新田 雅彦</p>
15:15-15:30	休憩
15:30-16:10	<p>教育講演1：大阪救急症例帖2018 演者：京都大学 環境安全保健機構附属健康科学センター 特定助教 木口 雄之</p> <p>教育講演2：蘇生と中毒 演者：大阪警察病院 ER・救命救急科 医長 廣瀬 智也</p>
16:10-16:25	休憩
16:25-17:35	<p>Pro/Conディベート：現場滞在時間と特定行為のタイミング 座長： 大阪市立大学医学部附属病院 救命救急センター 准教授 西村 哲郎 枚方寝屋川消防組合消防本部 警防部救急課 副主幹 辻本 順一</p> <p>コメンテータ： 厚生労働省地域医療計画課 救急・周産期医療等対策室 病院前医療対策専門官 飯塚 悠祐 消防庁 救急企画室 救急専門官 小谷 聡司 静岡県立総合病院 安全衛生監・集中治療センター長 一般社団法人 日本蘇生協議会 代表理事 野々木 宏</p> <p>演題：豊能地域における病院前救急医療体制について 演者：大阪府済生会千里病院 千里救命救急センター 副院長・救命救急センター長 林 靖之 豊中市消防局 救急救命課 救急高度化係長 渡里 剛</p> <p>演題：特定行為より早期搬送！～堺市圏域の地域性 演者：堺市立総合医療センター 診療局長・救命救急センター長 中田 康城 堺市消防局 救急部 救急ワークステーション 主幹 樋本 克徳</p>
17:35-17:40	心停止サバイバーからのコメント
17:40	閉会挨拶 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 教授 嶋津 岳士

【問い合わせ】 大阪蘇生アカデミー実行委員会 事務局

resuscitation_acad@osakalifesupport.jp

第6回 大阪蘇生アカデミー開催概要

テーマ:ガイドライン2020に向けて

開催日:2018年12月5日(水)

会場:大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター) 7階 ホール

内容:

特別講演1として、日本蘇生協議会代表理事 野々木宏先生をお招きし、「蘇生ガイドライン2020作成に向けて:我が国の国際貢献と今後の展望」についてご講演いただいた。特別講演2として大阪医科大学救急医学教室、新田雅彦先生から「ウツタイン統計は何をもたらしたか?小児蘇生学からの展望」のテーマでご講演いただいた。

教育講演では、毎年好評の「大阪救急症例帖2018」および「蘇生と中毒」について講演があった。『現場滞在時間と特定行為のタイミング』と題したPro/Conディベート型のシンポジウムでは、救急隊が傷病者に接触した現場において気管挿管などの特定行為をどのタイミングで行うのか、滞在時間をどのように考えるのかについて、それぞれ講演およびディスカッションをおこなった。全体を通して、日本蘇生協議会代表理事の野々木宏先生、厚生労働省病院前医療対策専門官の飯塚悠祐先生と消防庁救急専門官の小谷聡司先生にコメンテーターとして多くのご発言ご意見をいただいた。

成果:

医師、看護師、救急救命士など様々な職種から230人と多数の参加をいただいた。「ガイドライン2020に向けて」というテーマのもと、救命救急における最新の知見を共有すると共に、行政、病院、消防と異なる立場から救急現場のプロトコルについて活発な意見交換をおこなった。アンケートの結果から、多くの参加者が本会に満足し、次回開催を期待している事を窺い知ることができた。

<主催> 特定非営利活動法人 大阪ライフサポート協会

<後援> 大阪府、大阪府下消防長会、大阪府救急業務高度化推進連絡協議会

<共催> 大阪医科大学 救急医学教室

大阪市立大学医部附属病院 救命救急センター

大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター

関西医科大学附属病院 高度救命救急センター

京都大学 環境安全保健機構 附属健康科学センター

<協賛> 旭化成ゾールメディカル株式会社、株式会社フィリップス・ジャパン、日本光電工

業株式会社、日本メディカルネクスト株式会社、日本ストライカー株式会社、株式会社CU、株式会社ジェイ・エム・エス、オムロンヘルスケア株式会社、レールダルメディカルジャパン株式会社、株式会社アレクソン、浜松ホトニクス株式会社、アイ・エム・アイ株式会社、コーケンメディカル株式会社(順不同)

写真





連絡先

(住所) 〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島 1-17-5 ス튜디오新大阪 416 号

(氏名) 定非営利活動法人 大阪ライフサポート協会 事務局

(電話・FAX番号) TEL : 06-6370-5883 FAX : 06-6370-5884